



『奥薩摩のホタルの乱舞』(写真提供：鹿児島県さつま町 東郷光行氏)



当町とさつま町(旧鶴田町)との交流は、「鶴田町」という同じ町名がきっかけで昭和六十三年から続いてきました。

その交流は、北は青森県の「鶴田町」と南は鹿児島県の「鶴田町」と、全国に二つしかない同じ名前の町が遠く離れていても、架け橋でつながって続いていると「鶴の架け橋交流」と銘打たれました。

両町は、平成九年に姉妹都市盟約を締結しました。それ以降、郷土芸能「五ツ太鼓」の指導や鶴風の制作講習会等の文化交流、リンゴの販売やアジサイの植栽等の農産物交流、青少年交流といった幅広い分野でさまざまな交流を広げてきました。

平成十七年三月、鹿児島県鶴田町は合併により町名が「さつま町」となってから、両町の交流は民間レベルで続けられてきました。

架け橋で結ばれた両町の 友情と絆

絶えず続く『鶴』の架け橋交流

鶴田町。

同じ町名が縁で交流が始まった二つの町。

北は青森県の「鶴田町」^{つるだまち}と南は鹿児島県の「鶴田町」^{つるたもちょう}（現：さつま町）。

全国に二つしかない両町は遠く離れていながらも交流を続け、

さまざまな人が、文化が互いの町を行き来し、そして深い友情が育まれてきました。

架け橋でつながれたその交流は『鶴の架け橋交流』と銘打たれ、

両町の活性化を目指し、幅広い分野で交流を展開してきました。

平成二十二年十一月には、「鶴田町」という同じ名前がきっかけで姉妹都市盟約を結んだ両町の縁を改めてつなげようと、さつま町との友好交流協定を締結。ここから新たな両町の交流の幕が開かれました。

その後も両町は、「鶴田とさつまの会」の発足、災害時に物資や人的支援を相互に行う「災害時相互応援協定」を締結し、両町の固い絆が結ばれてきました。

今回の「鶴の架け橋交流」には鶴田とさつまの会、鶴風の会、町関係者など五十五人が参加。五月十九日（月）から二十一日（水）までの三日間の日程でさつま町を訪問した一行は、竹細工が展示されている伝統工芸センターや、芋焼酎を製造する軸屋酒造を視察。地元の佐志小学校での鶴風揚げ交流会には、鶴風の会の会員らが参加し、当町から持ち寄った鶴風5体を寄贈したほか、同小の子どもたちと鶴風を揚げました。

歓迎の交流会には約百五十人が出席。両町長のあいさつの後、交流の証として当町から津軽塗りの花瓶、鶴風の会から鶴が描かれた鶴田焼きの絵皿を贈り、さつま町からは薩摩切子、同町鶴風の会からは竹製の花瓶が贈られました。交流会では、さつま町の轟太鼓の演奏や、五ツ太鼓の演奏にあわせた鶴田夢音頭が披露されたほか、出席者同士が互いの町の話や近況を話しながら、両町のさらなる絆を深めていました。